

ほとんどの事故は、基本的な安全規則を守らない運転、点検、整備で発生しています。車両の運転や操作を行う前には、必ず車両に搭載されている取扱説明書を熟読してから、安全にご使用下さい。

機械の輸送について

- (1) 積込・積み下ろし時
 - ・水平で地盤の固い場所にて作業し、路肩や崖に近い場所は避けて下さい
 - ・機械が滑らないように足回りの泥を落として下さい
 - ・必ず道板を使用し、エンジン回転を低速にしてゆっくりと行って下さい。また、道板の上で進路変更しないで下さい
- (2) 輸送時
 - ・輸送するときは、道路輸送法令や車両制限などの関係法令を守って安全に行ってください
 - ・橋や構造物の上を通過するときは、機械の質量に耐えられるか事前に確認して下さい

エンジン始動前の点検・調整

- (1) 冷却水量・燃料量・エンジンオイルパン油量・エアークリナーの目詰まり・電気配線損傷などを点検してください
- (2) 運転席は、作業しやすい姿勢にあうように調節し、シートベルトや取付金具の損傷・磨耗を点検してください
- (3) 始動は必ず運転席で行ってください。また、運転者以外の人を乗せないで下さい

自走の注意

- (1) 車検のない機械を公道で自走させる場合は、臨時運行許可証を取ってください
- (2) バケット容量が0.6m³以下であってもキャノピ・キャブ付きでは小型特殊免許で公道自走は出来ません。大型特殊免許保持者が運転を行ってください
- (3) タイヤサイズにより走行速度が変わります。標準タイヤ以外のタイヤを装着する際にはご相談下さい
- (4) バケットは空で走行してください
- (5) キャリアダンプは公道を走る事は出来ません

その他

- (1) 機械を本来の用途以外に使用しないで下さい
- (2) 機械の改造はしないで下さい
- (3) 返却時はキャビンのゴミ等は処分してから返却して下さい

ちょっとひといき

～良い燃料系で良いパワーを～

意外にも見落としがちなトラブルの元が燃料系だと言われています。

燃料の給油時、燃料キャップを外した状態となるため、燃料タンク内に砂埃や雨水が入り込んでしまうケースは珍しくありません。また、燃料タンクの中にはガソリンや軽油だけでなく当然「空気」も入っていますが、燃料タンクは燃料が減った分だけ外部から空気が入る仕組みになっています。さてこの空気、雨の日や梅雨時などは空気中の湿度が高く年平均よりも多く水分を含んでいます。また、季節の変わり目や冬季には朝晩の気温差が激しいと燃料タンク内外の気温差も大きくなり、空気中に含まれた水分が水滴へと変わります。これにより燃料タンクの表面や内側に水滴が付くわけです。

このような異物や水分が混じった燃料をそのままエンジンに圧送してしまうと、燃料ポンプや燃料噴射ノズルを詰まらせるなどエンジンの不調の原因となってしまいます。このため燃料ラインの途中にはゴミや水分の除去を目的とした「濾過器」が必ず取り付けられています。

それが「燃料フィルター」で、幾重にも折り曲げた円筒形の濾紙を密閉ケースに収納したカートリッジ型や濾紙そのものを交換するタイプなど様々な物が装着されています。

ところが、異物を濾過しているため使用していれば当然ながら詰まりを生じます。500時間も稼働すると内部の濾紙は真っ黒になり、濾紙としての効果が期待できず、もはやただ単なる抵抗にしか過ぎません。

特に重油が混ざった燃料なら尚の事フィルターの濾紙が目詰まりを起こしやすくなります。

運転中の注意

- (1) シートベルトを確実に着用して下さい
- (2) 発進する前に周囲に人や障害物が無いか確認して下さい
- (3) 機械後方に視界を遮られる範囲がある場合は誘導員を配置して下さい
- (4) 平地を走行する際には作業機を適正な高さに保ってください
- (5) 不整地を走行する際には転倒しないように低速で走行し、急激な操作はしないで下さい
- (6) 障害物の乗り越え走行は避けて下さい
- (7) 電線に注意して下さい。高圧電線の場合は接近しただけで感電する恐れがあります
- (8) ダンプ機能は本来の目的以外の使い方をしないで下さい(キャリアダンプ)
- (9) 荷台のダンプアップは水平堅土上で行って下さい(キャリアダンプ)
- (10) 急激なダンプ操作はシリンダを破損する原因となります(キャリアダンプ)



燃料フィルターが詰まった場合、エンジンの力を必要とする時など流量が増えたときに必要な量を流しきれなくなってガス欠症状を引き起こすようになります。

なので燃料フィルターも定期的な交換を必要とするのです。ちなみにここで注意したいのは、重機などの場合、燃料フィルターの前にはほとんどの機種に「セジメンター」と呼ばれる水抜き用のカートリッジが装着されています。

ここで分離された水分はきちんと抜いてやれば問題はないのですが、このセジメンターが水で満タンとなり、あふれた水が燃料フィルターへ流れ込むと、やはり燃料詰まりや燃料系統のトラブルとなってしまいます。

作業前点検を行う際に、是非とも燃料の量以外にセジメンターもチェックしましょう。

紙フィルターから
カートリッジまで

お気軽に
お問い合わせ下さい

